

【事業実績】

本事業は山形市中心市街地である七日町を中心としたまちの記憶を山形アーカイブ実行委員会と山形大学学生サークル「まちの記憶を残し隊」が協働して収集し、「山形アーカイブ (<https://cherry.yum-archives.net/yamagata-archive/>)」で共有することで記憶を残す意義を広め、山形市民に地域の課題解決の糸口として活用してもらうことを目的としている。

3年目にあたる本年度は山形市や山形まちづくり株式会社と協働して、建造物のVR撮影や子供向けの教育イベント等を実施した。その結果、まちの記憶を核とした世代間の交流が次々と生まれている。「地域課題解決に向けた多世代の学びの創出にかかる取組」を実現し、徐々に効果が上がりつつある。ここでは市民向け普及イベント「ななはく！」の概要を紹介する。

◆ななはく！2024 ルーナ 令和6年9月27日（金）～29日（日） 参加者150人（展示のみ）

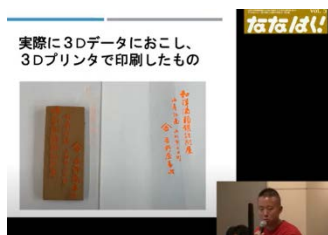
○七日町印刷博物館～150年の物語～



東北芸術工科大学美術科版画コースが所有する昭和初期の石版と山形市所蔵の地誌の版木をもちいた印刷体験。

体験できる印刷博物館、とても楽しかったです。学生さんもとてもしっかりと親切に対応して下さい、版画コースの仲の良さも伝わってきました。(30代女性)

○まちの記憶を残し隊報告会



まちの記憶を残し隊の活動について報告。

ふだん何気なく見ている町のことなどいろいろ知ったり、気づかせてもらったりとても楽しいです。参加する人ももっと多ければ・・・もったいないナーと思います。残し隊さんのがんばりに感謝です。(70代女性)

○ななはく！寄席



立川志らびーさんは落語「ラーメンこわい」「お見立て」、宝笑亭熊水さん創作講談「山形そば・ラーメン物語」、落語「時そば改作山形 Ver.」熊水ちゃんがとても華やかでかわいかったです。志らびーさん二つ目とはいえさすがプロです!(60代男性)

○まちの記憶を聞く会



酒井製麺所の酒井昌夫さん、鈴木製粉所の鈴木文明さんの山形市民に愛されるそばとラーメンの話。素晴らしい日曜日の午後の過ごし方でした😊とても勉強になりました\(^o^)/小幡先生、酒井製麺所さん、鈴木製粉所さん、ありがとうございました♪(50代男性)

◆山形新聞共催 後藤ひろひとトークショー「山形とUMA」・山形UMAを樹脂粘土でつくろう・けっぱちゃんねる出演



山形新聞と共催で劇作家後藤ひろひとさんの指導による樹脂粘土でのUMAづくり。玉手英利山形大学学長（生物学）とのトークショー。想像でつくるUMAは考えるのが難しかったけどオリジナルのUMAをつくるのができて、とても楽しかったです！来年もこのような企画があれば、ぜひ、参加したいです!(10代女性)

◆ななはく！2025 ソーレ 令和7年2月7日（金）～9日（日）参加者 283 人（展示のみ）

○ラジオ生配信けっぱつちゃんねる YBC「勝手にタイムスリップラジオ昭和と小僧」とコラボ



来年で 10 年を迎える人気ラジオ番組の始まりや印象深いエピソードを語っていただくことで「ラジオの魅力」を紹介。

ドンキー佐藤を生で見られてうれしかった。オーラがあった。放送の様子からも話の内容からも昭和を感じられる良い時間だった。（60 代男性）

○ななはく！寄席



宝笑亭熊水さん搜索講談「電波がつむぐ100年ラヂオ語り～山形記～」、立川志らびーさん「孝行糖」「親子酒」。

ラジオのコンセプトとても良かったです。最高でした！（40 代男性）
おいしいおそばと楽しい落語。久しぶりに大笑いさせていただきました。また次回があれば参加したいと思います。（60 代男性）

○まちの記憶を聞く会



コミュニティ放送をしている山形コミュニティ放送の玉井優さんの開局の経緯やコミュニティラジオの意義などの話。

非常に興味深い講演だった。知名度がないのはおいしいので、大学内でもっと広報したほうがよいのではないかな。（20 代男性）

○ワークショップ ラーメン缶バッジづくり/和菓子レプリカづくり



江戸時代から昭和2年までの山形市の地図（拡大印刷）と、教員と山大生が収集したまちの風景やインタビュー結果を展示。

ラジオ・ラーメンバッジとてもたのしかったです。またやってください。
3D プリンターを利用して作った型は細部まで再現されており、レプリカの完成度も高いと思った（20 代女性）

○旧済生館本館VR見学



旧済生館本館の未公開部分を撮影し VR ゴールで体験。将来的に認知症患者さんへの非薬物療法への活用を検討。

VR の映像で旧済生館を回る体験では音も収録されていて蝉の鳴き声や階段のきしむ音まで聞くことができ実際にその場にいるかのような感覚だった（20 代女性）

今後について

山形市が管理する旧済生館本館のVR撮影など行政や企業と連携はスムーズになった。しかし子供向けの講座は集客に苦戦した。教育への活用についてはさらなる工夫が必要である。現在は高校生以上をターゲットにした企画を検討中。また、山形新聞や YBC との連携関係を継続し、山形アーカイブとななはく！のさらなる周知につなげていきたい。そして、これまで培ってきたさまざまな人とのつながりを活かし、地域の課題を気軽に相談されるような実行委員会と博物館の在り方を模索していく。